

湘南国際村活性化検討委員会（第9回）議事録

- 1 日時 平成31年1月30日（火） 13:00～15:15
- 2 場所 湘南国際村センター 1階 ルミエール
- 3 出席者 委員7名、オブザーバー2名（協働参加型めぐりの森づくり推進会議会長、株式会社湘南国際村協会常務取締役）
- 4 発言要旨

委員 長： ただ今から「湘南国際村活性化検討委員会」第9回を開催する。

議題1「湘南国際村活性化検討委員会報告（案）について」

（資料1について事務局から説明した後、資料2について協働参加型めぐりの森づくり推進会議会長から説明した）

委員 長： 確認だが、資料2の位置付けは、どのようなものか。

推進会議会長： 協働参加型めぐりの森づくり推進会議として、提出したもの。

委員 長： 資料1に「参考」という図表がいくつかあるが、公表する際にこの図表も付けた状態で公表するのか、あるいはこの会議限りで削除するのか。

事務局： 「参考」の部分も付けた状態で公表する。

委員 長： 資料2を念頭に置きながら、資料1を議論するのだと思う。

それでは、順番に見ていきたい。

まず「まえがき」について、如何か。

委員： 3点ある。

1点目として、「中期的な視点で検討している」という文言を入れた方がよい。11ページの下から4行目に、今回の委員会では「主に中長期的な取組みについて検討を進めてきた」とある。このキーワードは、この委員会でも常に話があり、「短期的ではない」としてきたので、そのような文言を入れるとよいと思う。

2点目として、「この委員会での検討結果は、基本計画の改訂につながる」という文言を入れた方がよい。20ページに、最終的に「基本計画の改訂」とある。今の「まえがき」では、平成18年に改訂された現行の基本計画を改訂するとは書いていないので、ここで示した方が分かりやすいのではないかと。

3点目は、基本構想から基本計画ができ、その後改訂されたというポイントとなる経緯を記載した方が、全体の流れが「まえがき」で俯瞰的に見ることができると思うので、そうした点も書いてはどうかと思う。もちろん、経緯は1ページに書かれているが、そのポイントだけは「まえがき」に書いた方がスッと入ってくると思う。

委員 長： 「まえがき」を読んで文章に入っていくことが多いので、今のご指摘のとおり

りだと思う。まず目先ではなく中長期的な話であること、基本計画の改訂を念頭に置いての検討であること、それで終わるのではなくその先に具体的な行動に移っていく、ということも書いていく。

もう一点、お伝えしなければならないのが、この報告書は公表されるので、県民の方、読まれる方の目線で読んで、ご意見をいただければと思う。

次に、目次について、如何か。

表現、過不足、章立ての順番などが、ここではほぼ分かる。

よろしければ次に、1ページから3ページの「1. 既定計画による湘南国際村の理念と村づくり」について、如何か。

委員： 3ページ目に、①構想、②ビジョン・コンセプトとある。この②は、「構想を実現するための具体的な考え方」となっていて、その右に「基本計画」「改訂基本計画」と書かれているとおおり、現行の基本計画のことである。これと、18ページを見比べていただきたい。18ページは、そうした基本計画を踏まえた形で、この委員会で「こうした論旨でまとめてきた」というもの。このうち「1. 既定計画による湘南国際村の理念と村づくり」の(1)に基本構想、(2)に基本計画とある。この「(1)基本構想」は、3ページの基本構想と同じである。次の「(2)基本計画」は、3ページでは「ビジョン・コンセプト」に該当するが、この言葉は合わせた方がよい。例えば、18ページの「(2)基本計画」にする、という方法がある。その理由は、18ページの「3. 基本的な方向性」で「ビジョン・コンセプト」という言葉を使っている。これは、その前の部分で現状分析と課題整理をして、その課題に対して「こんな方向性で」と示している。ここで「ビジョン・コンセプト」という言葉を使って、18ページの「1. (2)」では「ビジョン・コンセプト」という言葉を使わない方が、素直に受け止められるだろうな、と感じた。そこで、3ページの②は「基本計画」と書いた方が、整合がとれて、よいのではないか。

もう1つは、3ページの③に「施策」とある。この「施策」は、この報告書の中には示されていない。もし、ここに「施策」と書くのであれば、「それはどのようなものか」を書いた方がよい。書かないのであれば、削除した方が混乱が生じなくてよいのではないか。

委員長： 3ページと18ページの整合性、ということだと思う。ちなみに、現行の基本計画を見ると、ビジョン、コンセプト、コンテンツという言葉は使っていない。ここはトーンを合わせるということで、他の委員は如何か。混乱を避けるということで、問題ないと思うが。

2点目の「施策の具体例をどうするか」については、現状を見ていただきながら、書き込めるなら書き込んだ方が分かりやすい。ただ、書き込めるものがないなら無理に書くものではない。

では、次に4ページ目と5ページ目である、「2. 現行の基本計画の検証および湘南国際村の現状・課題」の前書きと、「2. 1 現行の基本計画の検証」について、如何か。

なお、本日欠席の委員に対して、2月6日までとして事務局がご意見を伺う考えだと聞いている。本日もご出席の皆様においても、今回の委員会終了後にお気づきの点があれば、ご連絡いただきたい。

委員：細かい話だが、5ページ目の表の見方について。「現行計画におけるスケジュール」に、○、◇があり、「結果」として●、◆がある。この「丸」と「四角」の違いは、何か。

あと、「これまで」の後に「の」が入るかと思う。

また、表の中に「×」が入っているものがある。その意味は、見れば分かるかもしれないが。

委員：私も「×」については、「現行計画における事業スケジュール」という表題の中では、掲載がそぐわないのではと感じる。このあたりは、後ろの2. 2「現状」などの部分ではないか。確かに、現状がどうなっているかという点があると分かりやすいが、うまく整合がとれればと思う。

委員長：10ページの後ろに持ってきて、まとめるということも考えられる。

事務局：確かに、「×」の部分はここに記載するのが場所として如何かという面もあるので、表現も含めて掲載する場所を検討したい。

それから、「丸」と「四角」の違いが分かりにくい。説明があれば別だが、初めてご覧になられた方は、すぐ分からない。「丸」が民間系の動き、「四角」が行政の動きとなっているが、厳密でない部分もあるかもしれないので、何かしら分かるようにしたい。

委員長：民間が主導していく部分がある、ということが分かるとよいと思うので、説明等を記載していただきたい。

委員：閉院があるなら、開院があれば、すわりがよいのでは。

委員：白と黒の違いは、「計画では「白」だったが、実際は「黒」だった、ということでしょうか。

事務局：そのとおり。

委員長：BC地区において、矢印が平成30年度で止まっているのか、継続しているのか。A地区の「その他の施設」では29年度で矢印が止まっている。矢印が止まっているのか、継続しているのか、消滅しているのかが、うまく表現できるか、ご検討いただければ。

5ページ目の表は、計画と実際の結果との違いがありながら動いている、ということを理解していただけるかと思うので、修正をお願いできればと思う。

続いて、6ページ目から10ページ目にある「2. 2 湘南国際村の現状」について、如何か。

委員：10ページの(10)の「村内外の連携」に、三浦半島魅力最大化プロジェクトと未病改善の文言を入れた方がよいと思う。12ページの「基本的な方向性」の「② 三浦半島全体の活性化」、「③ 県・市・町の政策の連携」に三浦半島全体魅力最大化プロジェクトが記載されており、③には未病改善が入っているため、初めて読まれる方は、「その前の段階で、何らか記述があるのでは」と探されるのではないか。しかし、何も書かれていない。そこで、(10)に「こういった事業が動いている」ということを書いた方が、12ページの言葉の唐突感がないのでは。

委員長：後ろに急に「連携しよう」と出てくるが、それが前に記載されていない。ただ、前の記載は、現状の問題点の把握なので、表現に工夫が必要。(10)に書き込むか、それ以外の各地区の動きをうまく入れ込みながら、そこの連携を盛り込むか。そうした追加項目になるかと思う。

事務局というより、県の他の施策との連携という点から、ここにどのように盛り込んでいくか、具体的な文章を作成して、その施策の担当と話をすることになるのではないか。検討をお願いしてよいだろうか。なかなか難しい問題かと思うが、よろしく願いしたい。

委員：9ページの「(7)湘南国際村センター利用者数」が減った理由、こうした現状に至った理由として、「宿泊研修需要の減少の影響と推測される」というのは、誰が言ったのか。今までの住民などの声を反映すると、活用した方がよいに決まっているが、こちら側の姿勢がうまくないから、結果的に来場者数が減っていると検討委員会の意見でも出ているが、ここに書いてあるように我々が考えていると思われてしまう。

年末に、全国の加盟店を呼んで、センターを利用し、和食レストランである「桂」で会席料理を頼んだ。そうしたら、当日になったら突然バイキング料理になっていた。驚いたのが、焼きそば、ウインナーなどが出てくること。「オーダーしたものと違う」と伝えたが、「急にできなくなった」というようなことを言われた。仕方がないので、私が個人で全員連れて日陰茶屋まで連れていった。湘南国際村にあるセンターの機能について、住民が「これはおかしい」と言っているのだから、その改善をこの中に盛り込んだ方がよいのではないか。12ページに「湘南国際村センターの更なる活用」とあるが、「活用して」と言っても活用しないのだから、活用するために何をするのかと言えば、プールなどがあるのに開放しないという姿勢がある。そこを分析した結果、改善が必要だと思うので、そこは載せた方がよいのでは。この街の中にこれだけのよい施設があり、なぜこんなに活用されないのかという大きなギャップがある。その原因は、ソフトだと思う。

委員長： 2つのお話があった。

1つは、湘南国際村センターの利用者数の減少の理由が、明示的すぎるということ。センターの宿泊者数の推移としては、それほど減っていなかったと思う。「リーマンショックの後、減少したものの、その後は横ばいで推移している」という定量的なデータがあるのであれば、そのデータを示していく、ということ。ここは現状を述べておく。

2つ目は、分析結果が12ページにつながるのかどうか、ということだと思うが、このあたりはどうか。

委員： 料理の話は一例だが、住民からも、なぜ湘南国際村センターを使わないのか、意見が出ていた。その分析をしないから、住民は使わないし、このグラフだと「リーマンショックが全て悪い」という感じになってしまう。それが全てではないと思う。もう一つは国際会議といっても、会場が狭すぎて国際会議が誘致できない。他のところに行ってしまう。そこに対して、どのような対応をしていくのか、どのように人を集めていくのか検討しているのだが、そこが全て抜けて、我々が検討してきた内容が「宿泊需要の減少の影響だ」というのでは、委員として格好が悪い。検討したのだから、そこをもう少し入れよう。そうしないと、また同じことになる。社会現象を原因にして、改革しないから。

委員長： 来村者数に影響があるのは、入村機関の企業の研修と、湘南国際村センターなどだと思うので、皆様からご意見を伺って、減少している理由について各施設での分析結果をいただいて、それを述べる方がよいのではないかと。そして、説明がつかない部分は、むしろ説明しない方がよい。そこは「理由は分からない」と。

委員： 世の中で、会議室やオフィスのレンタルなどの需要は伸びている。「駅に近い」など立地条件のよいところに出店しているが、ここは弱いに決まっている。減少している理由は、明らかに競争力の低下。

委員長： 今のご意見に関しては、改めて企業と湘南国際村センターのデータをもらい、それを付け加えてもよいので、まずは実務を進めるということではよいかと。

委員： それで結構だ。

委員長： 事務局の方で、これは大変だということであれば、もう一度考えるが。代表的な施設があれば、全てである必要はない。逆に、介護関係などは増えている。単に減少しているというだけではなさそうなので、事務局で、事実を記述していただければと思う。

私からの意見だが、四角囲みで「住民アンケート等の声」とあるが、記載が少ないかと思う。もっと多くの大事なご意見をいただいたので、この倍くらいの量があってもよいのでは。住民のご意見は、問題点を如実に反映している部分がある。先ほどのご意見のように、「人が減っているのはこうした理由ではないか」という推測とは異なり、住んでいる方の実感として説得力がある。もう少し追加して、課題に的確に対応できるような文言にしていただければ。

委員： 今のご意見に賛成で、住民のご意見を、もっとたくさん書いてよい。この報告

書を見た時、本当の意見が書いてないと、報告書として価値がない。付録でもよいので、付けたらよいのでは。

委員：言葉じりで申し訳ないが、10ページの「(9)情報発信」と「(10)村内外の連携」だけ、語尾が「必要がある」「求められる」となっている。「現状」という項目の中で、ここだけ「課題」のような書きぶりになっているので、少し書き換えるか、この項目に置かず、「課題」の項目に入れても問題ないかと思う。

委員長：例えば「(9)情報発信」であれば、「魅力を十分伝えられる状況になっていない」、あるいは「そうした声がある」など。「(10)村内外の連携」は、先ほどのご意見をうまく盛り込む形で、「本来こういうところと連携すべきだが、連携できていない」とし、「連携すべきところ」の例として未病改善などを入れてもよい。

委員：6、7ページの「(1)人口減少」、「(2)高齢化」の部分だが、「参考2」の「三浦半島の人口の推移」を見ると、この先も人口が減っていく予測となっているが、それに対して湘南国際村は、下がった時期もあるが、新たな宅地開発もあり、若干持ち直して横ばいになっている。「ここに住みたい」という需要はある、ということだと思う。

ただ、「(2)高齢化」の記述を見ると、簡単に2行で「高齢化が進んだ」「40歳代の割合が減少している」といった内容になっている。人口が現状維持であるのに対して、なぜ「40歳代の割合が減少している」のか記載が必要。そこが居住部分での問題だと思う。そこを改善しないと、この傾向はますます続くということになる。住民の立場としては、その部分をもう少し具体的に記載し、課題が明らかになるようにしていただきたい。

委員長：確かに、「人口は減少傾向にあったが、近年横ばいである」という表現でもよいかもしれない。そちらの方が正しいかもしれない。人口減少は、これだけで何か言えるものでもないので、ご検討いただきたい。

委員：全体の人口が減っているのに、湘南国際村は増えているのだから、むしろ、よいのではないか。そうしたポジティブな意見も入れた方がよいのでは。

委員：それにもかかわらず、若年層が減っているのはなぜなのか、ということを考えてみると、これは持論だが、交流人口の増加も大事だが、村の人口が増えることが一番の活性化だと思っている。

委員長：高度成長期を含めて、団地の再生を見ていると、まさにそのとおり。新しい人口にいかにかうまく切り替わっていくか。それを、この部分だけで見るのは難しいかもしれないが、もし県の方で資料があれば、一言追加していただければ。

それでは、11ページ「2. 3 湘南国際村の課題」と、12ページ「3. 基本的な方向性」はペアになっているので、その連携を頭に置きながら、如何か。

ところで、11ページの下段に下線があるが、この意味は何か。

事務局： 線の上の「(2)地区別の課題」と、その下の記載が別物であることが分かるように、線を入れたもの。

委員： 11ページの「⑤ 中核施設」とは、どこのことか。

事務局： 湘南国際村センターのことである。

委員： それを明示した方がよいのでは。

委員： 11ページの「② 交流人口の増加」について。先ほど、9ページの来村者数、湘南国際村センターの利用者数の減少について、「宿泊研修需要の減少だけではなく、別の理由も記載すべき」とのご意見があった。そうすると、この記載内容も同様に修正すべきではないか。

委員： 例えば、「② 交流人口の増加」の記載において、先ほどのご意見のとおり、様々な意味で「需要」自体はあるのだが、湘南国際村を選んでいただけないということであれば、宿泊研修の「需要」の減少というより、「実績」という単純な表現でもよいのでは。

委員長： 来村者数の減少が進んでいるのかどうか。そこを明確にして、ある程度バックデータがあることを前提に、文章をどう見直していくか。需要は減っているが、来村者数は横ばいということもあるかもしれない。調べていただいた結果に合わせて文章を見直していきたい。

委員： 9ページの「(6)来村者数」のデータは、何を指すのか。

事務局： 年に1回、県から各入村機関に調査を依頼して、その施設にどれだけ人が来たかを確認している。例えば研修施設なら、その施設で何人研修を受けたかを教えていただいている。湘南国際村センターについては、宿泊者数や施設の利用者数も入っている。ただ、湘南国際村に観光目的などで来られた方が、仮設駐車場に車を停めて、そのまま帰ったとすると、そうした人数をカウントする術がない。これから先、BC地区で新たな取組をした際、その人数をカウントできる仕組みができれば、そこでの増減が見えてくるのだが、現状ではできていない。

委員： そうすると、このグラフの人数は、湘南国際村センターの利用者数も含めているのであれば、そのうちセンターの利用者数がどのくらいなのか、必要かもしれない。

委員長： そこは、先ほどお願いしている部分にも入るので、作業をお願いしたい。

また、今のご意見の「来村者数とは何ぞや」について、カウントできる範囲での宿泊者や研修者の数、という説明をお願いしたい。ここには、写真撮影などで来られた方は、入っていないということだ。

委員： 12ページの「④ 湘南国際村センターの更なる活用」だが、更なる活用を促進するための改革が必要だ。「更なる活用」というと、「誰が」という話になる。推進するためにサービス内容を変えるとか、これから意見をまとめて改革

するといったことが必要。「更なる活用」だと、違和感がある。これは委員としての意見ではない。

活用を促すなら分かるが、活用を推進するために何かをするわけだから、「更なる活用」とここに書かれたところで、誰が活用するのかという話になる。そこを見直していただければ。

事務局： 湘南国際村センターについてご意見をいただいている。現時点では、様々な規制があり、例えば一般のお客様にセンターの施設をご利用いただくことは原則的にはできないことになっている。基本的には、研修者のための、宿泊研修のための施設となっている。そうした制限がある中で、これだけの施設があるのもっと活用を図るようにしていくべきだというご意見をいただいて、それを報告書にまとめていく、という内容でよろしいか。

委員長： 地区の用途制限の見直しによって、更に活用の促進を図るという表現にすると、具体的にイメージできるかもしれない。ご検討いただきたい。確かに、規制があるということが頭から外れてしまう。

委員： 「課題」の中に、「そうした規制のもと、利用が限られる」といった文言を入れてもよいのでは。

委員長： 「立地が可能になった」という言葉の中に、「何らか規制があったのだろう」と考えることはできるが、確かに現在、そうした文言は明示的には入っていないのでは。

事務局： 現在、そうした文言は入っていない。

委員長： そうした規制の変更も基本計画の改訂には含んでいるので、それが問題点の起点になるのであればそれを書いていただく形で、最初の「1. 既定計画による湘南国際村の理念と村づくり」か「2. 現行の基本計画の検証および湘南国際村の現状・課題」でうまく盛り込んでいただきたい。

委員： 9ページの「(7)湘南国際村センター利用者数」があるが、今のご意見は、利用者数の話だけではなく、そうした制約という現実があると、「現状」にしっかり記述をするということだと思う。それを受けて11ページの「⑤ 中核施設の活性化」における湘南国際村センターの記述になる。あらかじめ「現状」に明確に書いておけば、「そこに対応しなければならぬ」とつながると思う。

委員長： それを書いていただいた方が、最後に「用途の緩和」も入っているので、「課題を生んでいる用途は見直していけないか」という話に入りやすいと思う。

委員： 「まえがき」にも記述してはどうか。そうすればポイントが絞られる。

委員長： 先ほどの「基本計画の改訂につながることを前提にしている」というご意見があったが、その動機として、「規制緩和を考えていけないといけない部分がそろそろ出てきているので」とするとよいのでは。

次は13ページの「4. 1 強化すべき機能」について、如何か。

私からの意見だが、このページについては、もう少しビジュアルにしてはど

うか。湘南国際村の航空写真があるが、どこの話をしているのかが分かるとよい。あるいは「(3)三浦半島の周遊拠点」における「三浦半島の中心部に位置する」については、以前、委員から「三浦半島の『へそ』である」という資料を出していただいたことがあるが、あれが非常に分かりやすかった。もう少しビジュアルにして、「中心部に位置する強みを生かし」が直接目に飛び込んでくるような工夫ができないか、というお願いである。

では続いて14ページから16ページの「4. 2 具体的な取組例、提案等」については如何か。

委員：この部分については、様々な取組例が掲げられているということだ。私は後から委員になったので、この議論に加わっていないが、できれば入れていただきたいことがある。例えば「インターナショナルスクール誘致」があるが、一番住民として必要なのは、義務教育の部分になる。ここの子どもたちはバスに乗らないと行けない、乗り換えないと行けないという環境にあるのが一番大きい。国際教育でもよいが、小中高一貫教育があれば、今、ここに住んでいない方でも「あそこの学校に入れたい」となり、村の人口が増えることにつながる。そうなれば課題の解決にもつながる。そうしたものも入れていただければ。

委員長：各委員から出た意見をここに羅列するということが、「こうした意見も入れてほしい」ということで、特に問題なければ、事務局で文言案を記述していただいて、確認をとっていただき、どこに入れるかを含めてご了承いただければ追加する、ということでは如何か。

様々なご意見をいただいた方が私はありがたいと考えている。実は、これは湘南国際村だけではなく、他の場所でも使える内容になっているので、そういう意味でも多くの意見があれば融通の利く報告書になる。

それでは、事務局で文言案を作成し、追加をお願いしたい。

次は17ページだが、「3. 基本的な方向性」を縦軸に、「4. 1 強化すべき機能」を横軸にして、いくつかの取組例を区分けするとこのようなマトリックス構造になるという表となっている。

こちら、私としては、「(参考)」を外して、「4. 2 具体的な取組例、提案等」のまとめの表として使った方がよい。非常によい絵だと思う。参考ではないのでは。「4. 1」、「4. 2」を見ても、この表は出てこない。縦軸、横軸で整理するとこうなる、というのは、新たな提案になる。できれば参考ではなく、まとめとしてはどうか。他の課題に対しても、非常によい例になるまとめかただと思う。

次は18、19ページの横長の「(参考) 課題、コンセプト、具体案の整理」だが、これは参考のままでよいか。ただ、巻末に「参考資料」と付けるのではなく、委員会報告の本文中の「参考」として入れるということではどうか。

次は、最後の章である20ページの「5. 活性化の実現に向けた取組みの進め方」は如何か。

委員：やはり最後に「まとめ」があった方がよいのでは。いきなり「進め方」と「事業スケジュール」と事務的な話になっているので、やはりここで「基本計画の改訂をするべきであろう」「用途地域を変えていくべきではないか」という、提言というか、投げかけがあって、はじめて「進め方」という動き方が出てくるのでは。そこまで活性化委員会が言ってしまってよいのかという部分はあるが、「基本計画の改訂がある」「用途地域の見直しがある」という前提になってしまっており、「検討した結果、そうした対応が必要ではないか」ということが、最終的な提案としてまとまった方がよいのでは。

委員長：それは一つの考え方だと言える。提言的なものが「4. 1 強化すべき機能」と「4. 2 具体的な取組例、提案等」の中に少しずつ書いてあり、その部分を再掲して提言という形で、「こういう考え方で、こういう方向性で」という内容をもう一度まとめて、先ほど話のあった「制約」があるから改訂できないかという点も盛り込んでしまってから、その後ろに続けば、このスケジュールが存在する理由が分かる、ということだと思う。

委員：報告書なので、「だからこうだ」という結論がないと、「検討した結果は何なのか」と尻切れトンボになってしまう。

委員：「まとめ」はするべきだと思う。書き方の問題もあると思うが、それを「提言」という形で「5. 活性化の実現に向けた取組みの進め方」の前に持ってきた場合、その中身はどうなるかと考えた。その前の章のエッセンスを提言としてまとめるとなると、まとめた内容が提言であるから、エッセンスだけが提言であって、前の章で様々に記述している内容が提言ではなくなる可能性がある。この報告書全体を提言だと位置付けることもできる。ただ、「まとめ」があった方がよいので、この最後の章を「今回の検討のまとめと、今後の進め方」としてはどうか。そこで、「まとめ」と、「それをもとにして基本計画を改訂してほしい」とする方法もある。そう考えると、18、19ページも、「まとめ」の中に入れてしまえばよいのでは。「提言」という言葉の定義と、「提言そのものは何なのか」について、何がよいのか迷うところがあるが、一つの案としてそうした方法がある。

委員長：具体的に書くとなると、11ページと12ページを合わせて1ページにして「提言」にする。今までの検討で「こういう課題があった」「だからこういう方向にしよう」という議論があり、「例えばこういう具体策がある」ということを記載すれば、項目は全て含まれる。「課題との突き合わせ」は、そこでなされる。それを受けて、「こういう方向で改訂するということを提案する」とまとめて、「その後の作業」という整理もある。

ただ、皆様にご意見をいただきたいのが、提案としてまとめてしまうかどうか。しかし、この書類は「提案書」でも「提言書」でもない。今のところ、委

委員会の「報告」である。ここをどうするか。まとまりがよいのは、「まとめ」として次の活動につなげるという形の方が、この報告を読んだ時に尻切れトンボにならない。

委員：「4. 2 具体的な取組例、提案等」に委員の皆様のご提案をいただいているが、これをマトリックスでまとめただけでは、話を広げた状態で終わりにしてしまうのではないかと。一つの案としては、何らかの「まとめ」を経て、こうしたものを具体化していくためには、様々な事業者を有効に使うとか、住民などの活力を活用する、制約を緩和するという整理になり、そのための進め方を行政に願います、ということでは。

もう一つは、11ページと12ページを総括として、あくまで参考として土地の利用例があるという形にするか。うまく扱おうと思う。皆で知恵なり意見を出したので、これを進めていくためには、次のステップとして、この検討委員会ではない次のタイミングで取り組んではどうかという形にするか。最後に「まとめ」があるとよいと思う。

委員：この報告の位置付けは、委員会のメンバーが報告を作ることによってよいか。

事務局：そのとおり。

委員：そうすると、「5. 活性化の実現に向けた取組みの進め方」自体が必要なのかどうか。

委員長：この章は、前回の委員会で委員から「この検討委員会で終わりではなく、先の具体的なアクションが見えるところまで、概要でよいから書くべき」というご意見があったので、盛り込まれている。

事務局：この文章の主体、主語についてだが、今後、県が全体を進めていくはずなのに、委員会が主体であるような書きぶりになっているという面がある。一方で、前回までの委員会で、「先が見えるような形で何かしら示すべきだ」とのご意見があった。表現の仕方ではあるが、例えば「このようにしてはどうか」「このようにすべきではないか」といった形で、主語が誰なのかを明らかにした方がよいと考えている。

委員長：確かに、ご意見のとおり、最後の章のうち「(2)事業スケジュール」は、この委員会が書ける内容ではない。

事務局：事務局の原案の作り方が、県が取り組む内容を書き込んでしまっているため、議論を混乱させてしまって申し訳ない。今の議論を踏まえて、この委員会として何らかの「まとめ」は、していただいた方がよいのではないかと考えている。その中には、これまでの検討を踏まえると、このような課題がある。その課題はこのように解決していくとよいのでは、というご報告をいただいていると思うが、それを実際に進める上では、「(1)進め方」に記載のあるように、地元市、町と県の連携や、民間、住民の方々もしっかり連携していく必要があるため、そのように進めていくべきだということが一つ。

そして、現在様々な規制があるので、今後、活性化に向けた方策を実現して

いくためには、それを実現できるような規制に変えていくべきだ、というご意見をいただく。そうした内容でまとめていただくのがよいかと考えている。

「(2)事業スケジュール」では我々の事務的なスケジュールが記載されているが、この報告で載せるべきものではないかと思うので、ここはなくてもよいのではと考えている。

委員長： 前回、「ここまで知りたい」というご意見があり、記載していただいたが、こうしてご意見をいただいていると、この委員会が書いてしまうと越権行為という内容になるので、「委員の皆様のご心配はないということを示していただいた」ということで削除し、この最後の章は「まとめと提言」的な内容に全てを再度見直して、繰り返しになる部分も多いかもしれないが、項目ごとに1ページ半くらいでまとめたい。

提言の最後に「民間のアイデアを活用すべき」「しっかり意見を聞きながら進めるべき」という意見を、具体的な進め方として記述してはどうか。そうすれば、皆様のご意見も入るし、越権行為もなくなる。

委員： この報告をご覧になられた方が、「スケジュールはどうか」と気になるかもしれない。ここに載せるべきか分からないが、この報告があった上で、県の意見として「こういうスケジュールが想定される」ということを一枚付けていただくことも考えられる。

委員長： 公開される際に、報告のデータの後ろに「この報告を受けて、県としてはこうしたスケジュールで進める予定」と記述すれば、解決できるかもしれない。公開の方法の中で、県の考えが反映できるのかご検討いただきたい。問題があるようであれば、「今後、具体化に向けた手続きは明確にしていく」ということでもよいかもしれない。

事務局： 「この検討委員会に提出する県の資料」という形でお出しすることは、議会にも報告している内容なので、可能だと思う。県から出す資料という形で、この検討委員会の資料の一つに付け加えることはできると思う。

委員長： 「ただし、決定事項ではない」と記載しておく。
では、そうしたことも含めてご検討いただきたい。

それでは、ページのある部分については、これで一通り見たことになる。
最初に戻って、ご意見があれば。

一番大きいのは、最後の章の書きぶりが大きく変わること。

まず、「まえがき」については、先ほどの制約事項や中長期的な取組み、基本計画の改訂などを追加する。

目次については特にないが、今の議論の影響を受けて、見直す。

「1.」については、規制の話や全体を通じた部分。

「2. 1」については、5ページの表を見やすくする。

「2. 2」については、分析の部分で定量化できるものはしていただき、それに伴って見直す部分が出たら、後ろの文書も修正する。あるいは考察も記述

する。あとはアンケートをもう少し充実する。

「4. 2」の表から「(参考)」を削除する。

「まとめ」については、11 ページの問題点と、それを受けての 12 ページの基本的な方向性が書いてあるので、うまく文章にできれば、「こういう問題があるので、こういう方向性を提案する」という形になると思う。「細かなところは『4.』を見てください」というくらいにならざるを得ない。

あとは、それを全て受けて、18、19 ページの参考の表、重要な表だが、この見直しがあれば、一緒に進める。

「5.」は、まとめと提言ということになる。

なお、事務局では、今回ご欠席の委員を含めて、2月6日までに事務局に意見をいただいて、それを基に、今回の修正などを含めて進めていくが、委員の皆様にご相談がある。

5章は大きな修正になるが、かと言って中身としては11、12 ページを超えるものはない。提言という書き方になるだけだが、もう一回委員会を開催するかどうか。方法としては、2月6日までにご意見をいただき、本日の議論と合わせて反映して、もし委員長預かりということであれば事務局と調整した後、委員の皆様にご覧いただき、ご了承いただいて製本化していくという方法がある。もう一つは、再度委員会を開催してもう一度議論していただいて、そこでご了承いただいて終わる、というやり方がある。

よろしければ、委員には必ず原稿をご覧いただき、必要であればやりとりをさせていただくので、事務局と私で責任をもって修正文書を作成し、電子メールで進めさせていただければと思うが、如何か。

(異議なし、の声)

それでは、皆様にご覧いただいたので、いくつかの修正は事務局と私で案を作成し、ご確認いただいた上で成案としたい。

議題2「その他」

委員長： 最後に、事務局から何かあるか。

事務局： この後、委員長と最終とりまとめの作業を進めさせていただくが、ご欠席の委員を含めて照会するので、何かお気づきの点などがあれば、2月6日までに事務局までにお寄せいただければと考えている。その後、最終とりまとめが済んだら、県のホームページなど、何らかの方法で公表したいと考えている。当然、最終版を皆様にお届けする。

委員長： それでは、最後なので、皆様から一言ずつ感想をいただければと思う。

(出席委員、委員長、オブザーバー、事務局から発言)

以上をもって、本検討委員会の議案は終了し、委員長は閉会宣言を行った。